

自分の持ち場だけにとどまらない

理事長 貞方 洋子



年金、医療・福祉など、社会保障制度に関する議論が高まると共に、医療機関に対する国民の視線も、年々厳しくなっています。そういう中であって、私どもは患者さまが喜んでくださる最善の診療とわが家にいるようなやすらぎの医療の提供に、日々努めています。

医師は医師なりに、看護師は看護師なりに、もてるものすべてを提供しているつもりですが、医療費抑制が叫ばれる中、それに見合った診療報酬が保障されているかといえば、必ずしもそうではありません。

とりわけ急性期医療を提供している病院として、患者さまの高齢化の問題もスタッフの業務負担を重くしています。高齢の患者さまであれば転倒の心配をしたり、食事の介添えを行ったり、また病状の説明を何度も何度もしなくてはなりません。それだけ時間を割き、心のこもった医療を心がけているために、すべての業務が円滑に進むというわけにはいかないのです。

そうした問題をできるだけ解消したいと思い、平成20年度からは医療部門は医療だけ、事務部門は事務だけということもなくすように努めています。たとえば、医師が忙しい時は、事務職員でできるところは事務職員が積極的にサポートする、すなわち自分の持ち場だけにとどまらない、他の部門でも自分が協力できる部分を極力カバーしていく、という体制づくりです。当然、医療行為に関しては有資格者が行うというのは原則です。このように部門の壁を取り払い部門間で協働することで、職員一人ひとりが余裕をもって仕事に励むことができ、医療ミスなど決してあってはならない事故も未然に防げるものと確信しています。

その他、平成18年に開設した画像診断センターについては、地域医療機関からもご紹介いただき、感謝申し上げます。PET-CTなどの画像データは、各種研修会や学会で発表を行い、活用範囲も広がっています。嬉しいことです。また、福利厚生面では、院内に本格的なバレーボールチームが誕生しました。緊張の医療現場から開放されホッとする時間ですが、大会に出場するんだ、と部員一同一丸となつてがんばっています。このように仕事を離れての親睦といったものも深まっていき、これまた当院に新しい風を吹き込んでくれるのではないかと楽しみにしています。

末筆ながら、今後ともご高配とご鞭撻を受け賜りますよう、心よりよろしく願い申し上げます。

Nanpoh Hospital